

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		商店街（代表者）	・9月に大型再開発ビルが竣工し、百貨店と専門店街がオープンする。
		コンビニ（経営者）	・近隣の小学校建設工事が始まったため、来客数の増加が期待できる。
		コンビニ（経営者）	・9月に店舗のリニューアルを予定している。パン売り場など、地域密着の品ぞろえ強化を目指し、来客数、売上の増加を目指す。
		家電量販店（店長）	・灯油・ガス製品から電気製品へのシフトなど、安さよりも安全性を求める動きが強くなる。
		乗用車販売店（総務担当）	・8月末に新型のワゴン車を発売するが、富裕層向けに価格がやや高めに設定されており、総収益の底上げになるものと期待している。さらに、9月末にはスポーツ多目的車を投入することから、販売総量が上乘せされる。
		通信会社（社員）	・携帯電話の新しい割引サービスを近く開始する。
		住宅販売会社（経営者）	・受注は現状より増加する見通しである。
変わらない	変わらない	一般小売店〔精肉〕（店長）	・リピート客の増加、新商品の導入により、売上増加を期待していたが、依然として客の買い回りは良ならず、この先は不安である。
		百貨店（営業担当）	・ファッションでは秋・冬物の明確なヒット商品が見えないため、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・客は厳しい家計のなかで、相変わらず必要な食品を必要な量だけ安く買うという態度である。これは今後も変わらない。
		家電量販店（経営者）	・テレビは今後の需要が見込まれるが、パソコン関係は低調に推移する。
		乗用車販売店（経営者）	・富裕層を始めとしてあらゆる顧客層で、商品の良し悪しよりも経済的なコストを重視する傾向が見られる。これに対応できる商品や販売施策が出そろうまでは、好転は難しい。
		自動車備品販売店（従業員）	・ガソリン高騰のなかで、客は自動車関連支出を抑えるため、最低限の必需品だけを購入している。この伸び悩み傾向はしばらく続く。
		高級レストラン（スタッフ）	・現在の予約状況から見て、秋の行楽シーズンは期待できない。観光客に頼れないため、地元の忘・新年会に向けた販売促進を今年初めて企画する予定である。
		一般レストラン（スタッフ）	・参議院選挙も終わり、消費税引上げの見送りに対する期待感もあるが、ガソリンの値上げも続いており、なかなか消費が上向くまでには至らない。
		観光型旅館（スタッフ）	・9月から11月までの予約状況は前年を若干下回っているが、12月は上回っている。姉妹館は9、11月が前年を上回っている。
		旅行代理店（従業員）	・プラスまたはマイナスに大きく作用する要因が見当たらず、旅行は年初来の減少傾向が続く。
		通信会社（営業担当）	・年末の携帯電話の新機種投入に伴い、買い控えが発生する。
		住宅販売会社（総務担当）	・能登半島地震、中越沖地震が続き、住宅の安全性など高品質を求める話が多い。
やや悪くなる	やや悪くなる	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・例年、年末に近い時期には、ある程度の見込先が存在するが、今年はその気配が無く、心配である。
		百貨店（売場主任）	・原油の高騰を始め、株価も安定せず、また消費面では目立ったファッションの変化も表れず、買い控えが見られる。客にどうしても買いたいと思わせる商品が市場に出てこない。
		百貨店（営業担当）	・例年のこの時期は晩夏・初秋物ファッションが活発に動く時期であるが、今年の客は必要最小限の安い夏物商品を買って求めている。年金問題、食品偽装問題などから、客の購買意欲は減退しており、現在の消費ムードを一言でいうと「薄ぼんやりした霧の中」である。
		百貨店（営業担当）	・地域的に近接する百貨店が9月に移転オープンするため、客を奪われ、苦戦する。
		スーパー（総務担当）	・原油高騰による運賃や原材料費の値上げに伴い、商品価格が上昇するため、客の購入意欲が低下する。

		スナック（経営者）	・自営業や小規模経営者からは相変わらずのため息が漏れ、中堅企業の関係者からも「今年は期待できない」などの声が聞かれるなど、先行きに明るい雰囲気を感じられない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・婚礼の受注状況が前年を大きく下回っており、減収の見込みである。
		タクシー運転手	・経営悪化を改善するため、タクシー運賃の値上げを申請しているが、許可がなかなか下りない。
		テーマパーク（職員）	・グループ・団体客が多い秋の観光シーズンは、能登半島地震、中越沖地震の影響を受けやすく、現在の予約状況からの見通しは厳しい。
		競輪場（職員）	・昨年12月から今年の5月までは入場者の回復傾向が見られたが、6月から減少が続き、8月は今年の最低となっている。
		住宅販売会社（従業員）	・資材の高騰が止まらず、製品価格を値上げせざるを得ない状況になっており、価格競争力は限界に近づいている。販売数量の増加で吸収しようとしても、引き合い件数が減少するなかでは厳しい。
		住宅販売会社（従業員）	・米国の低所得者向け住宅融資問題の影響で、今後ますます住宅建設が停滞する。
	悪くなる	スーパー（店長）	・当店周辺の1キロメートル圏内に間もなく大手資本のスーパーが出店する。2年間で5店目の一部上場企業であるが、これが最後の出店かと思われる。ますます競合が厳しくなる。
		スーパー（営業担当）	・原油高騰によるガソリンや灯油の値上がりで消費者の家計を圧迫する。また、スーパーでの販売商品の相次ぐ値上げも予想され、販売量が落ち込む。
		パチンコ店（店員）	・業界第6位の業者が倒産したことから、銀行、リース会社が引き気味のため、同業者の倒産や和議等がまだ増加する。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞販売店〔広告〕（従業員）	・県内で百貨店やスーパーの新規オープンが予定されており、折込広告の増加が期待できる。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・為替の動きや猛暑など不安要素はあるものの、なんとか先行きの受注を確保している。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・ヨーロッパ・アメリカ市場の受注が好調なため、国内市場の落ち込みをカバーできる。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・当社はたまたま秋口まで多忙が続くが、業界全体としては受注の絶対量が増えていかない。
		精密機械器具製造業（経営者）	・眼鏡市場は二極化への動きが更に進んでいる。各社とも秋以降に向けての新商品開発に取り組んでいるが、国産品市場はより厳しくなっていく。
		通信業（営業担当）	・携帯電話会社の半額割引により、客のコスト意識が強くなってきた。全体的に通信に対する関心が増えれば、商売はやりやすくなる。
		金融業（融資担当）	・個人の景気回復実感がなく、個人消費が盛り上がらない。
	やや悪くなる	一般機械器具製造業（経理担当）	・米国景気の不透明感が払拭されない状況であり、国内、海外とも景気がやや減速する。
		輸送業（配車担当）	・軽油価格が前年の最高価格と同水準になりつつあり、9月以降は更なる値上げが予想される。
司法書士		・個人の債務整理だけでなく、土木業者の法人破産の相談も複数あり、悪化傾向にある。	
税理士（所長）		・物価の上昇傾向が続く心配がある。また中小企業にとって、賃金の上昇傾向が人材確保にマイナス要因となる。	
悪くなる	建設業（経営者）	・発注官庁の担当技術者は必要な維持修繕の仕事を発注したいと思っても、国・地方を問わない公共事業予算の削減により、財政部門からストップが掛かるといった事例が多くなっている。このようなスタンスが続けば、通常なら工事の発注が多くなる秋口も期待できない。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人の動きが年間を通して悪くなる時期に入るが、例年並みの推移となる。
		職業安定所（職員）	・製造業や派遣業からの求人が前年に比べ増加したが、建設業の求人は減少している。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は増加しているが、依然として非正規求人の占める割合が大きく、今後も変わらない。
	民間職業紹介機関（経営者）	・医療関係や技能・技術者等は人材が少ないため、景気に関係なく、常時求人がある。	
やや悪くなる			

悪くなる

-

-